

データ駆動型プロジェクト 実習（インターンシップ）

[実習] 第3学年 通年 必修 2単位

《履修上の留意事項》 毎回、各自のPCを必携のこと。授業では、毎回、各自のPCを使って演習をしますので、忘れずにPCを持参してください。

《担当者名》 教授／二瓶 裕之
教授／塚本 容子、講師／池森 康裕、教授／野田 昌道、講師／西牧 可織、助教／米田 龍大

【概要】

将来のキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）に参加することで、実社会における課題や問題を体感して、職業観・勤労観を高めめます。授業の序盤では、インターンシップの事前学修を行うとともに実習先に関する情報収集などをしながら業務内容の理解を深めます。授業の中盤では現場での実習（ボランティアなども含む）を行って、就業体験をしながらコミュニケーションスキルも磨きます。終盤には、授業全般を通じて学んだ内容についてレポートにまとめるとともに、インターンシップの報告・ピアレビューも実施します。併せて、就職活動の準備としてエントリーシートの書き方なども演習形式で学びます。

第一回授業は、6名すべての教員が担当をします。塚本容子、池森康裕、野田昌道が、それぞれ、看護、福祉（介護）、心理の現場での就業に関わる話題提供をします。これを踏まえて、二瓶裕之、西牧可織、米田龍大の3名が、今までに修得してきた基幹教育科目での学修内容が、どのように活用できるのかを具体的な事例をもとに解説します。第二回目以降の学内実習においては、各回の授業開始冒頭において、二瓶裕之が実習課題の解説を担当します。解説の後、実習課題に取り組むときには、西牧可織と米田龍大が、教室を巡回しながら、学生の質問等に対応します。学外実習（インターンシップ）においては、二瓶裕之、西牧可織、米田龍大の3名が、インターンシップを担う企業との対応、また、学生対応にあたります。さらに、塚本容子と池森康裕は、それぞれ、看護と福祉（介護）の現場の見学を担当します。

（オムニバス方式／全30回）（一部共同）

（二瓶裕之・塚本容子・西牧可織・池森康裕・米田龍大・野田昌道／1回）（共同）

（二瓶裕之・西牧可織・米田龍大／26回）（共同）

（塚本容子／3回）現場見学

（池森康裕／3回）現場見学

【学修目標】

- ☆インターンシップの目的と意義を説明できる。
- ☆実習先企業や団体の基本情報を調べて列挙できる。
- ☆現場実習を通じて課題を発見し、仮説を設定できる。
- ☆データサイエンスの手法を応用して現場データを解析できる。
- ☆成果を整理し、レポートや発表で表現できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	インターンシップ概要	インターンシップの目的を説明できる。看護、福祉（介護）、心理の現場での就業に関わる話題を列挙できる。	担当者全員
2	実習先調査	実習先企業・団体の基本情報を列挙できる。業種や事業内容を分類できる。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大
3～4	ビジネスマインド、ソーシャルスキル	ビジネスマインドの重要性を説明できる。社会的課題を列挙できる。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大
5～6	ビジネス動向・業界研究、イノベーション	業界の最新動向を調べる。複数業界を比較できる。イノベーションにつながる事例を列挙できる。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大
7～8	ビジネスアイデア創出、キャリアプランニング	新たなビジネスアイデアを創造する。キャリア形成の考え方を説明できる。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大
9～10	業種・職種・企業調査	多様な業種・職種を分類できる。	二瓶裕之

		ベンチャー企業の特徴を列挙できる。	西牧可織 米田龍大
11～20	学外実習・PBL	企業別ガイダンスを受けて内容を説明できる。 就業規則・ビジネスマナーを示す。 (学外実習) 複数の現場での実習を行う／データ収集／課題を発見し仮説を設定できる／データサイエンスの手法を応用し解析できる (学内実習) 実地調査やデータ収集を実施する／課題を発見し仮説を設定できる／データサイエンスの手法を応用し解析できる／グループで協調して課題解決を行う	塚本容子 (内、3回) 池森康裕 (内、3回) 二瓶裕之 (内、7回) 西牧可織 (内、7回) 米田龍大 (内、7回)
21～24	実習・PBL の振り返り、成果報告書作成	成果を報告書としてまとめる。 要点を整理して表現する。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大
25～26	成果発表会、ピアレビュー	他者の発表を評価できる。 自身の発表内容を工夫する。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大
27～28	自己理解・分析、エントリーシート作成	自己分析を行い強み・弱みを列挙できる。 エントリーシートの構成を説明できる。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大
29～30	キャリア相談、まとめ・今後の課題設定	キャリアについて具体化できる。 今後の課題を列挙できる。	二瓶裕之 西牧可織 米田龍大

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各企業・団体からの各学生の実習状況についてのフィードバックを参考にしながら、学内の事前学修、事後学修（報告・発表など含む）の目標到達度により、科目担当者が成績評価(100%)を行う。基幹教育科目の学内実習科目と同様に教授会において単位認定を行う。

【備考】

- ・ 本学 DX 推進サイト (<https://dx.hoku-iryo-u.ac.jp/>) に公開している資料を使用する。
- ・ 東京大学 数理・情報教育研究センター (http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html) に公開されているリテラシーレベル教材と応用基礎レベル教材も使用する。

【学修の準備】

- ・ 予習としては、自分で所有しているパソコンを利用して事前学修の項目を確認すること(45分)。
- ・ 復習としては、授業で作成した課題を再度作成するなどの事後学習を行うこと(45分)。
- ・ SGD や PBL では、事前に具体的な調査資料を配布するので、個々で調べて授業に臨むこと(45分)。授業終了後は、グループ討議の結果を自分なりに振り返り、授業中に作成したプロダクトを再度作成するなどの事後学修（復習）を行うこと(45分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 一般的なデータサイエンティストとしてのデータ分析・解析・AI などにかかるスキルにより瞬発力をもって課題を解決でき、加速度的に広がる生成 AI などの先進的技術を応用できる実践能力を身につけている。

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している